

公表

児童発達支援 事業所における自己評価総括表

○事業所名	すくすく塾 新保		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 22日 ~ 令和7年 3月 22日		
○保護者評価有効回答数 (対象者数)	2	(回答者数)	2
○従業者評価実施期間	令和7年 3月 18日 ~ 令和7年 4月 11日		
○従業者評価有効回答数 (対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 4月 16日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子様の支援時間の内、完全個別対応の支援時間を確保している。部屋も独立した構造になっていて、集中できる環境になっています。	お子様やご家庭の課題やニーズにより、オンラインの支援計画に基づいている為、毎回、お子様の現状の課題に沿った的確なアプローチを取り入れることで、抵抗感があったこと、出来なかったことに対して、「出来る。」「やってみたい」に変わって姿が多くみられています。	AIを導入し、脳科学から導き出されたアセスメントにより、5領域のうち必要な課題を的確な内容で支援に組み込むことにより、保護者から見た課題、児発管、担当職員から見えてきた課題、AIから導き出された課題、を総合的に支援に取り組んでいます。
2	保育士、児童支援員、社会福祉士、作業療法士、教員免許等の多種多様の専門の職員構成になっており、それぞれの専門性を生かして、チームで支援を行っています。	事業所内の研修や、外部研修会へ積極的に参加し職員の資質の向上を目指しています。	
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の建物の構造が、二階建で個室化されているので、運動する際や、利用人数により十分な広さが確保しにくいです。	運動面では、省スペースでも活動できる内容の物を選んだり、近くに広くて安全な公園があるので、公園を利用してのびのびと遊べる様にしています。	ねらいと目的により、さらなる工夫をしていきます。
2	地域との交流の場が持ちにくい。	保護者様がご要望になられていない為。	
3			